

Ⅶ 現場の教員を支援する

—教員免許更新講習（選択：生徒指導）を実施して—

岩澤 啓子

1 はじめに

教員は、教員免許が生涯有効なものとして教職に就いてきた。今回の「教員免許更新制」の法制化に戸惑ったのは現場の教員だけではなく、この法制化に伴う更新講座を担わなければならないとされた大学等であったと思われる。先ず教員は、自分に新たな負担が増し本務にしわ寄せがあると不満の声をあげ、大学等も新制度が必ずしも国民に周知されていないことに加えて、自ら計画する講習が現職教員の授業改善や児童・生徒指導能力向上に具体的な寄与ができるのか、鼎の軽重を問われかねないという漠たる不安を感じつつあった。

この免許更新制の導入については、様々な紆余曲折を経て最終的には“教員が最新の知識技能を修得し、自信と誇りを持って教壇に立つ”ことを目的としている。私は、本学が免許更新講習の場を設けることについては、地域貢献を果たすという大学の姿勢もさることながら、学生の教員免許状取得に力を注いできた立場からは当然の責務であり、かつその経験が現在教職課程を履修する大学生の学習内容の充実として還元されることを期待しつつ、この講習の準備に取組んだ。

しかし、更新制実施初年度に政権交代が行われると、政権党がマニフェストに本制度の見直しを掲げていた経緯もあり、10月14日には平成23年度から本制度を廃止するという新聞報

道がなされた。また、現行制度下で教員が講習を受講しなくても免許が失効しないよう平成23年1月の通常国会で、関係法令を整備するとの動きもみられる。

それとは別に、本制度の施行は新たな講習を企画した大学にとっては勿論、受講した教員にとっても貴重な体験となったはずである。私は、この貴重な機会に遭遇したことを幸運と受け止め、今後の教職課程の教育に活かせるよう努めたいと思っている。

2 更新講習に向けたスイッチの切り替え

更新講習制度の法制化に至る過程やその将来がどうあれ、今やらなければならないことは速やかに実行するというのが一貫した私の姿勢である。たとえ、教育界に朝令暮改を生みかねない政治情勢となり、この新しい制度を見直し、これを変更、或いは廃止することとなっても、学校現場にあっては現行法令を準拠として誠実に教育を継続することが、教員のあり方でなければならないと思っている。ようやく成立した制度そのものが適切か否かを論ずるのはいわゆる専門家に任せて、教育現場に身を置く私たちは、やるべきことが決まったならばいち早くスイッチを切り替え、新たなスタートラインに立ち内容の充実への道につなげて行かなければならない。もちろん、約40年近く教育公務員（公立の教員）として生きて感じたことは、制度への自分の考え方や意見はあるとしても、いつまでも持論を展開して為すべきことに手を付

けない人は、理由は様々であっても自分に負担が増す仕事には携わりたくない人であったということである。

幸い、神奈川大学では教職課程に携わる教員が「キャリア形成に果たす神奈川大学の役割」をテーマに、共同研究を平成19年度から行っており、20年度には教職にある卒業生の協力を得て、更新講習を視野に入れた教員の研修・学習（講習）のニーズについて聴取している。これが、更新講習のベースになる「教員のニーズに合わせた講習」を組み立てるヒントになり、いち早く次のステップ（18時間の割り振り）に踏み出すことが出来たことは、コーディネートする側にとって大変ありがたいことであった。

3 教員が受けてみたい研修・学習について（共同研究：個人・集団インタビュー回答から抜粋）

(1) 役に立つ研修と役に立たない研修、そのときの教師に気持ち

ア 「役立つ観」を持つとき

- ・内容に魅力を感じた（今日の課題や話題等）とき
- ・講師に魅力を感じた（著名な講師や話題の講師）とき
- ・時期的に校務にゆとりが有るとき
- ・仲間と出会えるとき
- ・疲れない（評価されない）内容のとき
- ・見学（レクリエーション的要素）等を取り入れた校外研修

イ 「役に立たない観」を持つとき

- ・忙しい時期や授業の自習課題を置いて出る研修
- ・与えられた（悉皆）研修
- ・遠距離会場での研修
- ・出張時間が勤務時間を超えるとき
- ・部活動や放課後の活動に支障をきたすとき
- ・内容に興味と関心を抱けなかったとき

(2) 更新講習について出された要望

ア 内容

- ・スキルアップにつながるものがよい
- ・教員の質の向上を図る内容がのぞまれる
- ・大学の所在地にちなみ、横浜を学ぶ（例：横浜開港150年にちなんだもの）等のような特別講座があってもよいのではないか
- ・模擬授業や、授業振返りの実践型研修があるとよい
- ・「やらされている講習」と感じる内容がないような内容にしてほしい
- ・教科に関する専門的なものを、選択できるように
- ・「経験を語る会」などは、勉強になる

イ 形態

- ・一方的な講話や講義ではなく、演習のような参加型研修をのぞむ
- ・講義を聴くだけの場ではなく、学校の現状等の情報交換をする中で、抱えている悩みを解決する場になるとよい

ウ 評価

- ・スキルが低下している者には、単位認定をしない厳しさがほしい
- ・指導と評価の一体化を図り、きちとした評価をしてほしい

大方の教員がこの講習に期待することは、「講義より演習」「スキルアップに繋がるものを」「情報交換を有効に」「最先端の知識や情報を」「厳しい評価を」等に集約されている。さらに具体的な内容としては、「障害を持つ子どもの脳の働き方を学びたい」「参加者が具体的事例を挙げて経験を共有し、意見交換できるような研修をしたい。そこにカウンセラーや専門的アドバイスの出来る人が同席してくれるとありがたい」「現在、教師の危機管理意識の低さが問題と感じている。危機管理意識の高揚を図る内容がのぞまれる」「もう一度、フレッシュな気持ちになれる内容を期待する」など、教育現場に新しい風が吹くのではないかとという講習への期待感を込めた言葉が述べられた。

4 選択「生徒指導」の大枠を考える…「子どもの問題行動、知る・話す・考える」

大学を卒業すると同時に中学校教員になった私は、30代後半で生徒指導専任教諭となり、他の教員に比すれば生徒指導に関する学習の機会を多く与えられた。事例研究、カウンセリング演習などの学習会、学校・警察連絡協議会等での情報交換、地域や関係諸機関との連携、少年院等の施設見学などから得たものは、その後横浜市教育委員会の児童・生徒指導担当指導主事としての実務における確かなバックボーンとなった。

今回、更新講習で「生徒指導」分野を担当するに当たって、いわゆる座学で講義を聴かせるのではなく、受講者が講師と共に生徒指導のハウツーの基礎となる姿勢と態度を創り上げていく学びの場としての講習を目指した。これをコーディネートするためには、かつて学んだ多くの研修体験を踏まえて実効性の高い方法の検討が不可欠であった。その際、講習の大枠を考える上で大変参考になったのは、教員のキャリア形成共同研究の一環である本学卒業者の現場教員を対象とした事前インタビューで得られた教員現場から生まれた切実な意見や貴重な教訓であった。

これらを踏まえて、「やらされている講習」より「受講者が講師と共に創り上げていく講習」の具体化を図るため、『子どもの問題、知る・話す・考える』を副題に決定し、細部調整が始められた。

5 「生徒指導」の内容を考える

学校の危機管理の主たる対象は、自然災害、事故、健康被害（感染症）などであり、行政的に生ずる事案も無視出来ない場合がある。「自然災害」は、地震災害の発生、風水害の発生、火災の発生などであり、「事故被害」は、不審者の侵入、授業中の事故（理科の実験・水泳など）、運動部活動等での事故、交通事故、登下

校中の事件・事故などが考えられている。また、「健康被害」には、伝染病の発生、給食・調理実習等による食中毒、給食の異物混入、飲料水の汚染などが生じる場合がある。加えて学校レベルの危機管理の対象としてクローズアップされているのは、「子どもたちの問題行動」である。学校は、安心して生活が出来る安全な場所でなければならない。そのために教職員は、生命や心身等に危害をもたらす様々な危険を防止し、万一事件・事故が発生した場合には、被害を最小限にするために適切かつ迅速に対処する危機管理能力が求められている。この「子どもたちの問題行動」への対処は、まさに生徒指導そのものである。従って、今回の更新講習では主として、子どもたちの問題行動について掘り下げていくこととした。

今、学校では「生徒間暴力・対人暴力」「対教師暴力」「器物破壊行為」「いじめ（ネット上のいじめを含む）」「ネット上のトラブル」「盗難・万引き等」「家出・プチ家出」「不良行為」「性非行（性犯罪被害）」「薬物乱用」「いわゆる『学級崩壊』」「不登校」「自殺（含未遂）」などが発生している。これに加えて、保護者などとのトラブル（保護者間、保護者と教員など）も深刻である。しかし、これらの全てを限られた18時間の更新講習で取り上げることは困難なので、現在教員にとって緊急性のあるもの、必要性の高いものなど、指導等に苦慮しているものを次の7項目に絞り、これらを突破口として指導力の向上に資することを企図した。

- (1) 中学生の問題行動と学校の危機管理…（必要性）
- (2) モバイルを媒介にしたトラブル、最新の情報…（緊急性）
- (3) 少年の相談事例、少年相談保護センターの対応…（必要性）
- (4) 性非行の実態と指導の在り方…（苦手意識が先行しがちな指導の必要性）
- (5) 保護者相談から学ぶ保護者との関わり方…（必要性）

(6) 教育相談体制の充実… (必要性)

(7) スクールカウンセラーの活用… (緊急性)

6 講習プログラム

◇1限 90分, 1日4コマ ◇8:50開始 16:10終了

1日目 8月5日 (水)	2日目 8月6日 (木)	3日目 8月7日 (金)
〈開講式・ガイダンス〉	「警察に寄せられた少年相談」	「スクールカウンセラーの活用」
「生徒指導上の今日の課題」	①講義「少年の相談事例から」	①講義「教育相談体制の充実と活用」
①講義「中学生を中心とした問題行動と学校の危機管理」		
②情報交換「子どもの問題と学校事情」	②危機管理演習「子どもの問題行動と対応」	②集団討論・事例研究
※ (アンケート)	※ (自己評価)	「スクールカウンセラーとの連携」
「モバイル時代の子どもたち」	「性非行」・「保護者対応」	
①講義「モバイルを媒介にしたトラブル, 最新の情報」	①講義「性非行の実態と指導の在り方」	※ (自己評価)
②討論「モバイルのトラブル, その対策と予防」	②講義と討論「保護者相談から学ぶ保護者とのかわり方」	「まとめ」
※ (自己評価)	※ (自己評価)	①論述試験
		②全体の振り返りとまとめ
		〈閉講式〉

7 評価について

最終日に行う論述式の試験 (2問) の内容と各テーマの評価観点等は, 以下のとおりである。

(1) 論述試験

①次の問の中から一つを選び, 論述しなさい。

ア 「ネット上のいじめ」や「出会い系サイト」等, ネット社会の負の問題が深刻化しています。学校に携帯電話を持ち込まない等の措置をとる自治体も出てきましたが, 今後新たに発生すると考えられる問題点と, 対応策についてあなたの考えを述べなさい。

イ 児童生徒の健全育成には, 保護者と教師の間のよりよいパートナーシップづくりが重要であると言われていますが, 具体的にどのようなことをしたらよいかあなたの考えを述べなさい。

ウ 性非行は, 子どもの性に対する意識・モラルの低下と, 子どもを取り巻く環境・要因が大きく影響しています。学校における予防的取組みについて, あなたの考えを述べなさい。

べなさい。

②「クラス担任はこんなに楽しい」と新任教師に語るときに, あなたはどのような話をしますか, 具体的な事例をあげて述べなさい。

(2) 各テーマの評価の観点 (自己評価)

①「中学生の問題行動と学校の危機管理」

ア 中学生に発生する問題行動について, またその要因等を理解している

イ 問題行動の未然防止, 早期発見・早期対応等, 学校の危機管理を理解し, 説明することができるか

②「モバイルを媒介にしたトラブル, 最新の情報」

ア モバイルを媒介にした最近のトラブルについて, 理解している

イ モバイルのトラブルについて, 未然防止に向けた学校の対応策を理解し, 説明することができるか

③「少年の相談事例, 少年相談保護センターの対応」

ア 児童生徒の問題行動について、外部機関（少年相談保護センター）の捉え方を理解している

イ 相談保護センターと学校の連携の必要性を理解し、説明することができるか

④「性非行の実態と指導の在り方」

ア 性非行の実態と学校における指導の在り方を理解している

イ 性非行の未然防止に向けた学校の取組みを理解し、説明することができるか

⑤「保護者相談から学ぶ保護者との関わり方」

ア 保護者が教員に何を期待しているか理解している

イ 保護者とのトラブル回避を踏まえたのぞましい関わり方を説明することができるか

⑥「教育相談体制の充実」

ア 様々な問題、課題に対する組織的な相談体制を理解している

イ 教育相談体制の充実に向けた校内の組織体制を理解し、説明することができるか

⑦「スクールカウンセラーの活用」

ア スクールカウンセラーの役割、連携の在り方について理解している

イ スクールカウンセラーの活用について理解し、説明することができるか

(3) 前2項のほかの、評価対象

①各テーマ毎に、学んだことや気づいたことの自由記述（振り返りレポート）

②各テーマ毎に、学習にのぞむ姿勢等の自己評価

（3段階記入：A概ね良好 B何とも言えない C反省点あり）

ア 研修意欲・態度

イ 討論や情報交換での発言（協力や協調性）

ウ 集団への貢献度

8 知人友人で固めた講師陣

初日午前中に行った「中学生を中心とした問題行動と学校の危機管理」については、私が担当した。内容は、今日的な中学生の問題行動と初期対応、学校の危機管理体制等を講義し、さらに関係諸機関との連携を取り上げてその後の各テーマにスムーズにつながるよう配慮した。

他の講義を依頼した講師陣は、私の中学校教員時代や大学教員となってからの知人・友人である。それぞれが各分野で活動している人たちで、多忙な中講師依頼を快諾してくれたことに感謝するとともに、改めて日頃の人間関係の大切さに思いを致すこととなった。

テーマ	モバイルを媒介にしたトラブル、最新の情報
講師	刈野 智喜
主要職歴	神奈川県警察 サイバー犯罪対策センター
専門分野	情報セキュリティーアドバイザー
テーマ	警察に寄せられた少年相談…少年の相談事例から
講師	新倉アキ子
主要職歴	帝京大学大学院 客員講師、元 神奈川県警察 少年相談保護センター 所長
主な専門分野・業績	日本社会心理学会 「¥3の代償…出会いに潜む危険性」（共著）等
テーマ	性非行の実態と指導の在り方
テーマ	保護者相談から学ぶ保護者とのかかわり方
講師	関 範夫
主要職歴	神奈川大学 人間科学部 非常勤講師、元 横浜市立中学校 校長
主な専門分野・業績	全国性教育研究団体連絡協議会 元理事 横浜市性教育研究会 元会長、横浜市教育委員会 元教育相談員

テーマ	スクールカウンセラーの活用…教育相談体制の充実と活用
講師	成井 香苗
主要職歴	神奈川大学 人間科学部 特任教授、福島県スクールカウンセラー
主な専門分野・業績	臨床心理学 「臨床例に見る青年期の自我同一性達成までの心理発達課題」(単著) 等
テーマ	スクールカウンセラーの活用, 集団討論「事例研究」
補助講師	小澤 真理子
主要職歴	東京都スクールカウンセラー, 北区保育課巡回指導員 都立七生特別支援学校相談支援室講師 (臨床心理士, 特別支援教育士)
補助講師	山本 直美
主要職歴	神奈川県, 横浜市スクールカウンセラー 神奈川県, 横浜市スクールスーパーバイザー (臨床心理士)
補助講師	望月 桂
主要職歴	東京都スクールカウンセラー (臨床心理士)

9 各講師と本講習に関する共通認識・共通理解を図る

テーマやその内容はもちろん重要であるが、受講する教員の気持ちをどう理解するか、講師がそれを共通認識として共有することが出来るか否かが講習成果の善し悪しを決めていく。そして、その過程が講習モラルを高めていくためには特に重要だと私は認識している。従って、共同研究で行った事前調査結果に基づいて受講する教員の気持ちを忖度し、受講者の期待に応えられるように講師との共通理解を図り、講習で使用するテキスト(冊子)作成等のポイントを提示して各講師に依頼した。

(1) 受講する教員の気持ち(共同研究で行った「研修について事前調査」から抜粋)

- ① 専門分野で活動している(いた)人の話を聞くことで、知識を広げたい。
- ② 話すことで、自校・自分の関わっている生徒指導上の問題・課題を整理する機会としたい。
- ③ 情報交換の場で、校種を超えた子どもたちの問題行動の実態を知りたい。
- ④ 講師や受講生とのネットワークづくりで、生徒指導への対応能力の向上が期待でき

そうである

- ⑤ 現場を離れ、大学で学ぶことでリフレッシュが期待される。

(2) 能動的な姿勢・態度の育成を目指す

- ① テーマにそって自分・自校が関わった(関わっている)子ども(たち)の問題行動や課題を振り返ってまとめる〈事例の整理〉
- ② 子ども(たち)の問題行動事例報告〈情報の交換〉
- ③ 問題・課題の本質を探る〈質疑応答で深める〉
- ④ 解決策を考える、解決事例体験を話し合う〈解決への思考〉
- ⑤ 校種を超えて、生徒指導上の今日的課題を知る〈理解する〉

(3) 演習の視点

- ① もし、私が〇〇学校の教員だったとしたら、この問題について、どのように考えるか。(問題点の明確化、問題の整理、問題・課題の発見)
- ② この問題について、私だったらどこでどのような対応をしていくか。(情報収集、初期対応)
- ③ 対応に伴い、予想されるリスクと回避方

法を考える。(問題の拡大を最小限に留める手だて、情報の管理)

- ④ この問題について、この後どのように取り組んでいくか。(説明責任と協力依頼、再発防止)

(4) 受講者用冊子の作成ポイント

- ① 講習内容が一目瞭然として分かり、まとめとしても活用できるもの
- ② ノート代わりに記入できるもの
- ③ 学校現場で活用できる資料を充実すること
- ④ 講義で取り扱わなかった内容や発展的な内容は、資料編に挿入する

10 講習を終えて…受講者のひとことから

- ・ここに来るまで嫌だと思っていた免許更新講習でしたが、始まると毎日が充実していて興味深い話しが聞け、大変勉強になり楽しい気持ちで通うことが出来ました。
- ・岩澤先生はじめ、新倉先生、宇野先生、関先生、成井先生、貴重なお話をありがとうございました。メモはしっかりとらせていただいたつもりですが、今でも話しの内容が耳からこぼれそうなくらいインパクトで残っています。パワーをいただきありがとうございました。
- ・生徒指導というテーマでサイバー犯罪や少年相談、性非行、保護者との関わり、スクールカウンセラーと、それぞれの専門家の先生方のお話を聞くことにより、今までの視野の狭さに気づき、たくさんの事例や指導方法を学ぶことができました。
- ・日々の仕事が忙しく、ゆっくり研修を受けることがなかったのですが、自分の指導の方法を振り返るととても良い機会になりました。
- ・様々な校種の先生方と討議することで、様々な事例を通じて小・中・高それぞれの様子が分かり、つながりも見えてきました。
- ・今、自分が持っている生徒についての不安が少し減り、今後の指導に役立ちそうな情報をたくさん得て帰ることが出来そうです。
- ・生徒指導についての今日の課題についてまとめて知識を得ると共に、今までの教育活動を振り返る機会ともなりました。
- ・サイバー犯罪について、いかに子どもたちが危険にさらされているかを具体的に知ることができ、ネット社会に潜む大変大きな社会問題について認識を深めることができました。
- ・講義の中に出てくる事例や、最終日のスクールカウンセラーの先生の講義や討論を通じて様々な知識を得ることができ、2学期から目の前の生徒とのかかわりの中で生かしていけると思います。
- ・この講習は大変役立ちました。学校(教員)が連携していかなければならない関係機関がたくさんある中で「このケースは何処へ相談すればいいのだろうか?」「この程度では相談するに至らないのではないか」などと思っていたことが、「そうか、この場合はこの機関へ相談すればいいのか」「この程度のことで気軽に相談できるのか」という考えに変ることが出来ました。職場に戻って、各関係機関の活用を勧めていきたいと思っています。
- ・講師の先生方がそれぞれに熱意を持っていらっしゃる的同时に、専門的かつ実的な講義を提供してくださり、中身の濃い研修となりました。
- ・何年かぶりに生徒の気持ちになって講義を受ける場面があったこと、他の先生方から全く思いも寄らない体験談を伺えたり、逆にほとんど同じ思いをしていることが分かる機会があったこと…など、受講前には「わざわざやらなくても…」と及び腰だったことが今では全てプラスに思えています。
- ・あらかじめ最終に行われる試験の内容が分かっていたので、安心できました。
- ・学校現場が直面している問題に触れていて良かったと思います。現場での悩みを解決してくださる内容が一番大切に、役立つ内容でし

た。

- ・ 具体的な事例がたくさんあり、とても刺激的でためになりました。
- ・ 今さら更新の講習？と思っていましたが、残された数年間やる気が出ました。毎回新しい発見があり、知らないこともたくさんあり、各先生方がエネルギーに教えてくださったことも心に残っています。資料もたくさんいただきありがとうございました。
- ・ 受講する前は、正直こんなくだらな制度、また負担が…とも考えましたが、いざ受講してみると逆の感想です。3日間あっという間に過ぎ、もっと話しをして欲しい！という場面が本当に多かったです。
- ・ 校種を超えたメンバーであったことも重要で、生徒の発達を確認していく良い機会であったと考えます。
- ・ 学校現場が直面している深刻な問題について、その分野のエキスパートから大変熱心にその要となるポイントや心構えを教えていただき、この講習を受講できて本当に良かったと心から思っています。
- ・ 更新講習以外にも定期的にこのような研修を企画していただきたいです。

11 おわりに

更新講習の選択18時間が長いものであったか短いものであったかは、受講者に対する動機付けが如何に成果を収めたか否かのバロメーターであるとも言えよう。受講者にとってはどんな時間であったのか、それぞれの興味と関心がどう働くかにより大きく分かれるところではあるが、企画（コーディネート）した者の18時間はあっという間に経過したが、準備期間は随分長かったという印象であった。それは例のない、そして講習の受講を必ずしも望んでいない教員を満足させる企画は確たる姿をなかなか現さなかった。文部科学省が大学等に期待する内容を、果して組織化できるのか、また元同僚とも言える教員に、懸案であった新たな良き学び

の機会を設けることができるかなどの課題が、終始念頭から離れなかった。

私は、受講者が「この大学の講習を選んでよかった、内容が具体的なので現場で役に立つ、情報交換の場に加えてリフレッシュができて得した」という思いを間違いなく実現できる内容と、それに応える実力のある講師陣を構築するところから始まった。そのために、受講者に配付する冊子の充実を図るとともに、講義内容には直接触れていないがそれぞれの学校現場で役立つデータ等を、資料編に付加して使用の便を図ることとした。各講師もこの意図を是として、有益な資料を多く準備してくれたので、この冊子は特に価値の高いものが出来上がった。いずれの講師も、十分な事前調整を踏まえてサービス精神に徹するという気持ちを共有してのぞんだ講習であった。

講習終了後、事務局から「受講者は概ね満足しているようです」と評価表を見ながら声をかけられたときは、素直に喜ぶ自分を認めることができた。それに加えて、同僚から「ご苦労様です。良い評価でよかったですね。」と労われたときは、気疲れが一気に解消される思いであった。また、依頼した講師の方々から「受講者が聞き上手で、時間を気にしながらも『あれも話したい、これも伝えたい』という気持ちにさせられ、もっと時間が欲しかった」「新鮮な体験で、とても楽しかった」という反応と「またこのような機会があったら呼んでください、お手伝いします」と言われたことが私の財産となった。講師が楽しく講義ができれば、受講者は楽しく学ぶことが出来る。講師の熱心な講義は、受講者の各学校での授業等を振返る契機を与えることができたのではないと思われる。受講者数を30名に限定したことも、一斉講義とグループ討議を展開させるのには適当な人数であったと思われる。また、研修場所が大学のキャンパスであったことは受講者にとっても教育委員会等が計画する悉皆研修とは異なり、リフレッシュする格好の機会でもあったようである。

最後に、私は希有なこの機会を与えられたこと、また講習形態やその内容など自由な企画を認めていただいた大学担当事務局に重ねて感謝をするとともに、この得難い実験教育とも言うべき体験から得た成果を教職課程を履修する学生に還元すべく内容の検討に入りたいと考えている。